

# JA全農 WEEKLY

3面

## 「令和2年度JA支援全国TV会議」を開催

(経営企画部)

6面

5面



ハラダ製茶と共同開発し全国で発売したプレミアム緑茶ティーバッグ(上)と六条麦茶ティーバッグ(2面)



216人がウェブやテレビを通じて参加した「令和2年度JA支援全国TV会議」(3面)

With/After コロナ時代の食と農  
寄稿 パンデミックが導く世界食糧危機に備えよ

京都大学大学院工学研究科教授 藤井聡氏

2 ハラダ製茶とティーバッグ共同開発、全国で発売(営業開発部)

第48回全国農協カントリーエレベーター協議会総代会を開催(米穀生産集荷対策部)

3 厚生連病院に三重県特産「伊勢茶」を提供(三重県本部)

4 インスタグラムで栃木米キャンペーン(栃木県本部)

福島県産農畜産物を使った「愛情たっぷり♪ほっこりレシピ」発信(福島県本部)

7 JAズームイン(長野:JA中野市)

8 令和2年度「作物栽培総合技術研修」受講生を募集中(耕種総合対策部)

ラジオ番組「JA全農 COUNTDOWN JAPAN」プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介  
しずおか「てしお屋」(静岡県経済連)

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web限定

日本代表選手を食でサポート!  
2019年振り返りレポ⑥卓球・ドイツオープン(広報・調査部)

「JA全農チビリンピック2019」  
振り返りレポートvol.5  
～アニマル浜口さん・浜口京子さんからの激励～(広報・調査部)

# ハラダ製茶と共同開発、全国で発売

全農の新たな商品ブランド「ニッポンエール」とのWブランドで展開

営業開発部

六条大麦茶ティーバッグ



プレミアム緑茶ティーバッグ



「六条大麦茶ティーバッグ」は、原料に国産六条大麦を100%使用し、「麦本来のあまみ」をテーマに開発しました。短時間でいり上げる製法「熱風焙煎」により芯までふっくらとより上げ、大麦の深い味わいと心地よい香ばしさをお楽しみいただけます。

「プレミアム緑茶ティーバッグ」は、静岡県産の1番茶を100%使用し、「香りのいいお茶」をテーマに開発した商品です。お茶の香りを引き立たせた配合でブレンドしています。また、抽出力の高いテトラティーバッグと鮮度保持に優れた個包装を採用することで、より急須に近い味わいと焙煎仕立ての香りを手軽にお楽しみいただけます。

営業開発部は、静岡県産茶葉を使用した「プレミアム緑茶ティーバッグ」、国産六条大麦を使用した「六条大麦茶ティーバッグ」を株式会社ハラダ製茶と共同で開発し、5月下旬から順次発売しています。

けます。

しみます。地よい香ばしさをお楽しみいただけます。

大麥の深い味わいと心地よい香ばしさをお楽しみいただけます。

# 第48回全国農協カントリーエレベーター協議会総代会を開催

優良農協カントリーエレベーターを表彰、上級オペレーター 12人認定

米穀生産集荷対策部

## 優良農協カントリーエレベーター

賞	県名	農協名	CE名
農林水産大臣賞	福岡	筑前あさくら農業協同組合	昭和カントリーエレベーター
政策統括官賞	愛知	西三河農業協同組合	南部カントリーエレベーター
全国農業協同組合連合会会長賞	宮城	いしのまき農業協同組合	東松島カントリーエレベーター
公益財団法人農業倉庫基金理事長賞	宮城	みやぎ登米農業協同組合	豊里カントリーエレベーター
全国農協カントリーエレベーター協議会会長賞	岩手	花巻農業協同組合	花巻東部カントリーエレベーター
	山形	庄内たがわ農業協同組合	立川カントリーエレベーター

## 上級オペレーター認定者(敬称略)

県名	農協名	CE名	氏名
宮城	いしのまき農業協同組合	桃生CE	大沼 竜治
	みやぎ登米農業協同組合	とよまCE	佐々木 昇
茨城	常総ひかり農業協同組合	千代川ICE	都井 測夫
長野	上伊那農業協同組合	飯島CE	吉澤 誠
新潟	新潟みらい農業協同組合	小杉CE	朝倉 淳
岐阜	東美濃農業協同組合	恵那CE	樋田 辰美
愛知	愛知西農業協同組合	一色下方CE	山田 孝幸
香川	香川県農業協同組合	坂出CE	山本 凌
		宝山・豊中共同CE	近藤 匠
福岡	にじ農業協同組合	田主丸CE	古賀 知博
佐賀	佐賀県農業協同組合	杵島東部CE	武富 剛
熊本	玉名農業協同組合	岱明CE	稲生 寿彦

総代会では、令和元年度事業報告および収支決算、令和2年度事業計画および収支予算について協議し、議案は全て承認されました。

また、CE協議会は5年に1度、運営管理や米麦の品質管理などにおいて他の模範となる優良なカントリーエレベーター(施設を審査し、「優良農協カントリーエレベーター表彰」を実施しています。3月に、農林水産省(公財)農

全国農協カントリーエレベーター協議会(CE協議会、会長…JA上伊那の御子柴茂樹代表理事組合長、事務局…JA全農米穀生産集荷対策部)は6月4日、第48回総代会を開きました。

総代会では、令和元年度事業報告および収支決算、令和2年度事業計画および収支予算について協議し、議案は全て承認されました。

また、CE協議会は5年に1度、運営管理や米麦の品質管理などにおいて他の模範となる優良なカントリーエレベーター(施設を審査し、「優良農協カントリーエレベーター表彰」を実施しています。3月に、農林水産省(公財)農

業倉庫基金、全農の後援も得て表彰委員会を開き、全国から6施設が受賞しました。

加えて、CE協議会は2年に1度、施設に関する十分な技術・知識を持ち他の模範となる現場オペレーターを対象に「上級オペレーター認定試験」を実施しています。1月の認定試験で、新たに12人が認定されました。



## 「令和2年度JA支援全国TV会議」を開催

県域JAと取り組んだ実践事例も報告

経営企画部

経営企画部は6月8日、「令和2年度JA支援全国TV会議」を開きました。全農役員や本所各部の他、県連・経済連、都府県本部から216人がウェブやテレビを通じて参加しました。

山崎周二代表理事理事長は、「JA支援はJAグループ全体で取り組む必要がある。JAの收支改善に向け、JA役職員の声を聴くところから始めてほしい」とあいさつしました。

続いて、昨年度のJA支援の取り組み状況およびJA支援を通じて目指す姿を再確認するとともに、JA支援課がJA

しまね・JA高知県といった県域JAと取り組んだ実践事例を報告しました。

また、令和2年度の新たな取り組みとして、全中、農林中会、全農連携のもと、県域JAで取り組んだアプローチ手法を全県本部が活用してJAにメニュー提案することを目指す考えを示しました。

今回の会議を令和2年度のキックオフとして、JA支援の取り組みをさらに加速化・深化させていきます。



216人がウェブやテレビを通じて参加した「令和2年度JA支援全国TV会議」



## 厚生連病院に三重県特産「伊勢茶」を提供

茶農家と医療従事者にエール

三重県本部

三重県本部は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けている茶農家と、感染リスクを抱えながら最前線に対応に当たり、地域医療を支えている医療従事者を応援するため、JA三重厚生連の県内7病院に県特産「伊勢茶」のティーバッグ90㏍(3㏍×30袋)入り300パックと新茶120㏍入り60袋を提供しました。

中野眞司県本部長は5月26日、厚生連の庄山隆裕理事長に取り組みを報告し、「緊急事態宣言解除後も医療現場は緊張状態が続いており、伊勢茶とともに少しでもほっとできるひとときを提供させていた

「だきたい」とエールを送りました。庄山理事長からは「伊勢茶によるご支援と心温まるエールに感謝します。今後

も役職員一丸となって、地域医療、新型コロナウイルス感染症対策に力を尽くしたい」とのお言葉をいただきました。



中野県本部長(右)が庄山理事長に伊勢茶を贈呈

# Instagramで栃木米キャンペーン

消費拡大・PRへ「おうち時間で楽しくお米を食べよう」

栃木県本部



JA全農とちぎ  
パールライス部  
Instagram公式  
アカウントは  
「@tochigi\_pearl」

このキャンペーンでは、新型コロナウイルス感染症の拡大により家の中で過ごす機会が多くなっている中、Instagramでお米を「とちぎ」「料理する」「食べる」といった動画や写真を投稿していただいた人の中から、抽選で5人に「特A受賞お米セット（県産コシヒカリ

「とちぎのか・なすむがり・とちぎの星」をプレゼントしました。特Aとは、日本穀物検定協会の「食味ランキング」における最高評価で、賞品の県産コシヒカリ、栃木県オリジナル品種の「なすむがり」、「とちぎの星」は2019年産で特Aをトリプル受賞しました。

お米との写真や動画を多数投稿していただき、好評のキャンペーンとなりました。今後も、引き続き県産米の消費拡大や魅力の発信に積極的に取り組んでいきます。

栃木県本部は、栃木米の消費拡大・PRを目的に、Instagramを利用した「おうち時間で楽しくお米を食べようキャンペーン」を実施しました。実施期間は5月31日までのおよそ1カ月間でした。

# 福島県産農畜産物を使った「愛情たっぷり♪ほっこりレシピ」発信

レシピブログと連携し、四季折々の福島の農畜産物をおいしく

福島県本部



今年5月から来年2月まで、首都圏を中心とする料理ブロガーにレシピ考案を依頼し、県産農畜産物を使った新たな食べ方や素材の魅力を、自身のブログやSNSで発信してもらうことで消費拡大を図りたいと考えています。

使用する県産農畜産物は、5月はスナックエンドウ、アスパラガス、6月はブロッコリー、7月はチェリートマト・キュウリ、8月はトマト・ナス・桃、9月はピーマン・インゲン・梨、10月はブドウ・牛肉・豚肉、11月はネギ・シユンギク・米、12月は菌床シイタケ・リンゴ、1月はニラ・あんぽ柿を予定しています。

内食傾向が強まっている今、日々の食卓のご準備として考案したレシピを活用いただければと思います。

考案したレシピは「レシピブログ」に掲載されており、検索エンジンで「福島クッキングアンバサダー」と検索すると閲覧できます。

福島県本部は、料理ブログのポータルサイトとして人気を集めている「レシピブログ」との連携事業として、県産農畜産物を使った料理レシピをインターネットで公開する取り組みを始めました。



# With/Afterコロナ時代の食と農

コロナ禍は食農業界にも大きな影響を与えました。今後の農産物流通はどのように変化するか？ 識者・関係者に聞きます。

【広報・調査部】

## 流通現場から見る今後の農畜産物流通

全農チーフオフィサー 戸井 和久 氏

### ① 進む業態のボーダレス化



#### ターニングポイント

2020年の3月は世界にとって一つのターニングポイントになることは間違いないでしょう。思えばちょうど9年前の2011年の3月も東日本大震災が起こり、日本にとっては一つのターニングポイントとなりました。その時も小売業としては放射性物質対応や復興支援など、変化に対応することが求められました。今回もあらゆる業態で変化に対応することが求められています。

#### 変化の性質の違い

東日本大震災の時は生活インフラが崩壊したので、被災地と非被災地の消費の動向を見れば必要なものが見えました。その後、地震を前提としたライフスタイルが消費者の中に根付いていき、保存食や簡便食品の商品開発が進んでいきました。

一方、今回のコロナ禍では、生活インフラが整っている中で人の移動が制限され、自宅での巣ごもり消費となりました。家族全員が家にこもり出掛けないので、ラストワンマイルまたはゼロマイル内での生活者の選択肢により、消費動向が大きく変化しました。近くの食品スーパー、コンビニ、ドラッグストア、宅配便の生協やオイシク

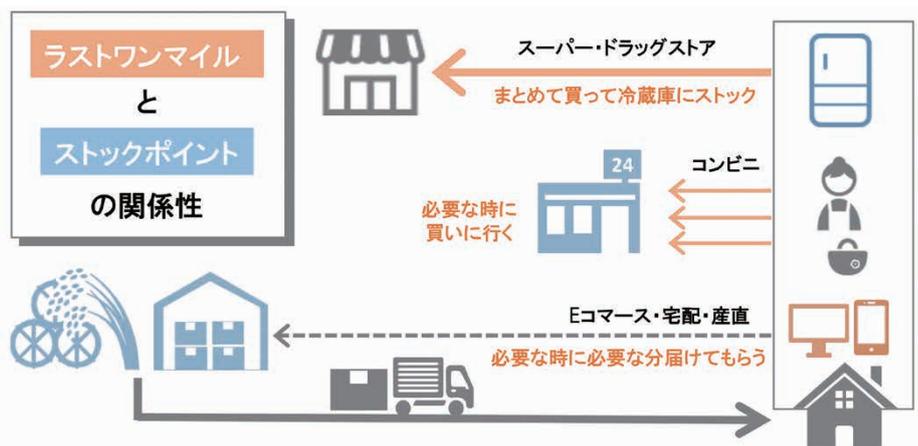
ス、ネット通販のアマゾンや楽天も選択肢の一つとなりました。ウイズコロナやアフターコロナもこの傾向は継続していくと思われま。

#### 小売・流通業態のボーダレス化が進む

ネットを含めたIT技術は今後、どの業態においても必須の技術となるでしょう。技術の無いところはあるところと手を組みます。ローソンとウーバーイーツが組んだり、今回店舗で販売できなかった外食店が出前館のようなプラットフォームを利用したりなど、既に動きは広がっています。農畜産物でいうと産直アプリも盛況です。今後、業態の垣根は一層曖昧になり、業態をクロスしたサービスも次々と出てくると考えられます。小売・流通業態のボーダレス化が進んでいくでしょう。

#### ラストワンマイルとストックポイント

IT技術によって情報がリアルタイムになると、消費者（誰）がいつ、何を、どこで、なぜ、どのように欲しい、または購入したかが見えてきます。それに合わせたサプライチェーン、すなわちラストワンマイルとストックポイントの組み合わせが新たなビジネスモデルになっていきます。「小売店までただいかに効率よく、新鮮に供給するか」という考えから、「その先の消費者が望むときに望む形で、いかに情報を付加した商品をお届けするか」という考えに変わらなければなりません。商品が最高な状態になっているのは売り場ではなく、消費者が使う瞬間なのです。



世界で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症。日本では緊急事態宣言が解除され、社会経済活動が徐々に再開する中、これからどのようなことが起きるのか。藤井聡京都大学大学院工学研究科教授に今後の食糧事情について寄稿してもらいました。

【広報・調査部】

# パンデミックが導く 世界食糧危機に備えよ

京都大学大学院工学研究科教授 藤井 聡

社会経済活動の制限は  
当面「年単位」で解除できない

新型コロナウイルスの感染拡大は、今小休止を迎えている状況だが、その対応は年単位で進めねばならないと覚悟しておく必要がある。



ふじい・さとし 京都大学大学院工学研究科教授および京都大学レジリエンス実践ユニット長

1968年奈良県生まれ。京都大学工学部卒、同大学院工学研究科修士課程修了。スウェーデン・イェテボリ大学心理学科客員研究員、京都大学大学院工学研究科助教授、東京工業大学大学院理工学研究科教授を経て、2009年から現職。内閣官房参与（第2～4次安倍内閣）、『表現者 クライテリオン』（啓文社書房）編集長、カールスタッド大学客員教授。

そもそもこのウイルスは軽症者や無症状者が多く、感染者全員を見つげ出し、隔離していくことがほぼ不可能なものだからである。だから、ワクチンが効果的な薬が出来るか、多くが感染して効果的な抗体を身につけることで「集団免疫」が獲得できるかのいずれかが成立するまで、感染者数が完全に駆逐されることはないのである。仮に、国内で「完全駆逐」が成功したとしても、海外との人的物的交流を続けている限り、海外から再び、新型コロナウイルスが侵入することは避けがたい。そして、ワクチンの完成には数カ年がかかると見込まれているのである。

パンデミックをもたらした  
グローバリズムが、  
パンデミックで終焉する

そもそもこのウイルスは、昨年時点には中国の武漢を除いて世界中に感染者は一人もいなかった。しかし、武漢で初の感染者が出てから瞬く間に武漢全体で拡大、そして、中国全体にも飛び火した。そして今や世界中を観光とビジネスで訪れている中国人が、世界中の国々にそのウイルスをまき散らかしてしまつたわけだ。つまりこのパンデミックは「グローバリズム」が生み出したものなのである。いったん収束しても、人の国際的な動きが少しでもあれば、再度の感染拡大が生ずることになる。こうした背景から、感染が拡大した今、多くの国々が渡航制限をかけるに至っている。その結果として、そして今明確に、グローバリズムは抑制される方向となっているのである。

世界食糧危機に備えよ

ところでこのパンデミックゆえに今、真剣に警戒されているのが「世界食糧危機」だ。

そもそも、世界各国は、経済産業活動を「停止」することで感染を押し込めようとしている。したがって、食料もまた、生産量が大きく縮小することは避

けられないのだ。もちろん、それぞれの国は、それぞれの国の国民が生きていくために必要な最低限の食料の生産は何とか確保するだろう。しかし、外国に輸出するためのものは、早々に「生産カット」されていくことは必至だ。そもそも、必要最低限の食料生産さえ確保することが危ぶまれるかも知れないのだから、金もうけのための外国への食料輸出が縮小していくことは必至だ。

こうなれば、カロリーベースで言えば4割程度しか自給できていないわが国日本は、深刻な食糧危機に直面することになる。

ついでは今からでも遅くない。近い将来必ず訪れる食糧危機に対応するために、農業の生産力を増強する対策を速やかに始めねばならない。同時に、日本で輸入に頼っていた食材ではなく、日本で供給力が一定確保されている米に対する、国民の依存度を高めていく必要がある。

そもそも、幸か不幸か特效薬が開発されるまで、それなりの時間がかかることが危惧されている。だとすれば、その時間を使って、自給率を高めるための供給対策と需要対策を徹底的に進めていかねばならないのだ。

藤井教授の  
ビデオメッセージはこちら

<https://youtu.be/wayknES3jjU>





# 適地適作生かした指導で

# 業務用露地キュウリ拡大

JA中野市は長野県の北部に位置し、果樹栽培が盛んな地域です。また、全国有数のきのこ産地で、全国生産量の4割を占めるエノキタケをはじめ、ブナシメジ、エリンギ、ナメコなどを

200億円)を占めます。

野菜栽培としては小規模産地ですが、その中でも販売高トップの品目はキュウリで、適地適作を生かした指導により栽培者を増やしています(令和元年度きゅうり部会員50人、面積約

3ha、販売高1億円)。

## 県本部の指導を受け無選別出荷スタート

キュウリ栽培は、水管理、整枝、剪定、防除のタイミング、病虫害防除の知識といった多様な技術や、収穫の時間など膨大なハードルをクリアしなくてはなりません。そこで、昨年からは長野県本部指導の下、手間をかけないキュウリ作り・出荷の取り組みとして、無選別出荷(出荷規格長さ18〜24・5cm、曲がり〜3cm、太さ〜3・5cm、1本重量90〜140g、10kgコンテナ入れ)の取り組みを始めました。

また、きのこ生産者の夏場減産期における雇用継続

(外国人研修生など)・確保のためにもこの取り組みを進めています。

**荷造り・調製作業簡素化で栽培者、生産量の拡大へ**

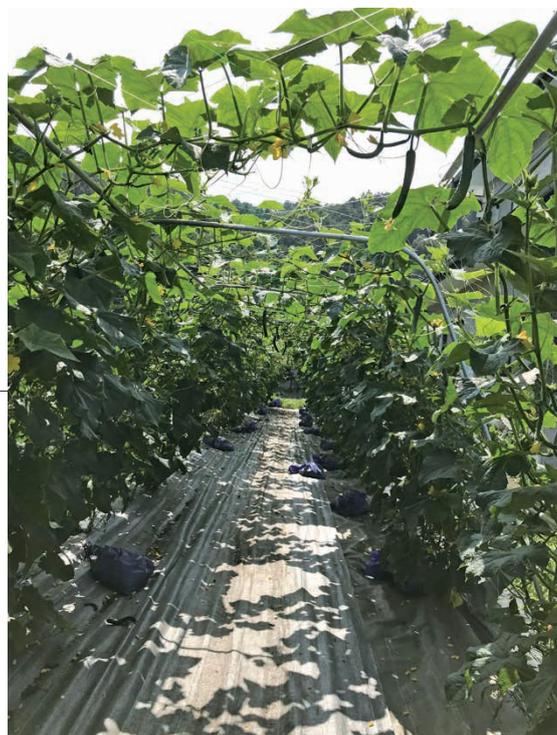
業務用のキュウリは、①基本的には需要で決まる単価を大きく引き上げることが販売環境によって困難、②収量性の改善・栽培規模



無選別出荷の荷姿

の拡大は技術革新と省力化によって可能、③省力化や規格簡素化など、収穫調製労力の軽減などを主体に改善することが必要、④長野県は耕作面積が小さいため、土地生産性を重視する傾向が強く、労働生産性に関しては着目してこなかった。他業種と比較する上でも、労働生産性をいかに上げるかが重要、⑤コスト面も単位面積当たりではなく、単位収穫量当たりの考え方が必要——ということを踏まえ、今後、きのこ農家だけでなく、これから新規にキュウリ栽培を考えている方にも、荷造り・調製作業の簡素化を図ることで、さらなる栽培者および生産量の拡大を進めます。

栽培の拡大を目指す業務用露地キュウリの園地



## JA中野市 (長野県)



概要	令和2年2月29日
正組合員数	4117人
准組合員数	3807人
職員数	322人
販売品取扱高	268億9千万円
購買品取扱高	63億9千万円
貯金残高	817億6千万円
長期共済保有高	3008億2千万円
主な農産物	きのこ、果樹(ブドウ)、野菜(キュウリ)、花(シャクヤク)

# 令和2年度「作物栽培総合技術研修」受講生を募集中

## 農業者のニーズに迅速に対応できる実践力あるTAC育成を目指す

耕種総合対策部は、TAC(担い手に向く担当者)を対象に、「作物栽培総合技術研修」を開いています。座学だけでなく実習を通じて、園芸作物の栽培基本技術を習得し、農業者のニーズに迅速に対応する実践力のあるTACの育成を目指します。ふるってご参加ください。

【耕種総合対策部】

研修は、神奈川県平塚市の営農・技術センターで行う「総合研修」と、山形、千葉、群馬、広島県の県本部の営農拠点で行う「作物別研修」からなります。研修定員は10人と少人数制で、講師を務める全農職員と綿密で活発な意見交換ができる環境となっています。

総合研修は、10月下旬からの第1クール(5日間)、来年1月下旬からの第2クール(4日間)で開催し

ます。この研修は、今年度で4年目の開催となりますが、昨年度の受講生からは、「非常に良い研修だと思うので、今後も中堅職員に学んでもらう場所としてもらいたい」、「少人数なこともあり丁寧な説明で、本当にありがたかった」などの評価をいただいています。

生産現場での営農・技術指導のさらなるレベルアップにつながる研修会です。ぜひご参加ください。

### 総合研修(必修科目)

	研修日時	研修場所
第1クール	令和2年10月26日(月)～10月30日(金) (5日間)	全農 営農・技術センター(神奈川県平塚市)
第2クール	令和3年1月26日(火)～1月29日(金) (4日間)	

### 作物別研修(選択科目)

	研修日時	研修場所
トマト・パプリカ・ピーマン	令和2年8月24日(月)～28日(金) (5日間)	全農山形県本部 園芸産地拡大実証研修農場
ニンジン・キャベツ	令和3年1月20日(水)～22日(金) (3日間)	全農千葉県本部 営農技術センター
アスパラガス	令和3年1月下旬～2月中旬 (3日間)	全農広島県本部 JA西日本営農技術センター
キュウリ・ナス	令和3年2月上旬～3月下旬 (3日間)	全農群馬県本部 園芸作物生産実証農場

\*新型コロナウイルス感染症の影響により、日程変更あるいは中止になる可能性があります。

申込締切:令和2年7月31日(金)

問い合わせ先:耕種総合対策部TAC推進課03-6271-8276

毎週土曜日13時～ TOKYO FM系列38局ネット

全農 ZEN-NOH

# COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

6月27日放送のプレゼントは、山形県産の「さくらんぼ紅秀峰」です。山形県はサクランボの生産量日本一。近年、人気とともに栽培量を伸ばしている「紅秀峰」は、大玉で甘味が強く、はじけるような食感とたっぷりの果汁が特長です。真っ赤なルビーのような美しさとジューシーな果肉を兼ね備えた、山形県が誇る初夏の芸術品をぜひご賞味下さい。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。

【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは6月27日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

この商品はここらからご購入いただけます。

JAタウンショップ名

小さなYAMAGATAマルシェ



JA全農のインターネットショッピングモール  
JAタウンショップ紹介

## しずおか「てしお屋」(静岡県経済連)

「アメラ・ルビズ」は、酸味と甘みの程よいバランスと、「パキッ」とした弾んだ歯応え、ビーンズのような形が特長の高糖度ミニトマトです。一粒一粒、丁寧に品質管理し、出荷する際には全品糖度チェック(基準10度以上)を行っています。完熟した状態でお届けしていますので、到着してすぐにお召し上がりいただけます。

糖度がとても高いため、常温で置いておくと熟しすぎて味が落ちたり、ヘタを取り除いた部分から傷みやすくなります。保管は冷蔵庫の野菜室に入れていただき、お早めにお召し上がりください。



高糖度ミニトマト「アメラ・ルビズ」  
(10パック1kg)JAおいがわ……4280円

ご注文は  
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>  
▶ お問い合わせは [shop@ja-town1.com](mailto:shop@ja-town1.com)



『JA全農ウィークリー』の  
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、  
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋  
になります。